

「○○くんもやっているよ」の社会

野田市立木間ヶ瀬小六年 石塚 仁菜

「だって○○くんもやっているよ」

そう、友達が言った。これは、小学生のケンカでよくある言い訳だ。

私の通学路では、「ポイ捨て」が多い。これは本来、軽犯罪で罰則が科される。ある日、コンビニのお弁当が捨ててあった。その次の日には、新しく、ペットボトルのごみも捨てられていた。また、次の日も、そのまた次の

日も、同じ場所に新しいごみが捨てられていた。一緒に登校する友達と、

「ここがゴミ箱だとかん違いしているのかな」と、苦笑いしていた。私の心の中は、悲しさでいっぱいだった。

この通学路が「ゴミ箱化」してしまっている。その理由は、「多くの人かやっている」という思いがあるからだ。ポイ捨ては、ごみを持ち帰ることがめんどうな時にしてしまうのだろう。他の人がポイ捨てをしていること

で、この行動はしてもいいとかん違いしてしまふからだと私は思う。

このように、他の人がやっているから正しいとかん違いしてしまうことは、いじめになる大きな原因になる可能性がある。

例えば百人のうち、一人がいじめられていて、九十六人が加害者だとする。残り三人も、多数の意見が正しいと思いこんでしまい、加害者と化してしまう場合がある。多数の方に賛成しないと不安になったり、正しいと

思いこんでしまう性質は、日本人ならではのかもしれない。なぜなら「日本人は、外国人と比べて、自己肯定感が低い」という研究結果がある」ということだからだ。そのため自分の考えは正しいと思っておらず、みんなが同じ考えを持っていることで、安心感を得ている。

このような犯罪や非行は、「他の人がやっているから」という思いでやってしまう。その思いからくる犯罪や非行をなくし社会を明

るくするためには、「環境作り」が大切である
と私は思う。例えば、まずは犯罪や非行は、
自分自身だけでなく、他の人への影響をあた
えるという意識を常に持つことが大切である。
「大人がやっていいるから」と非行をしてしま
う子どもが増えないよう、大人は犯罪を犯
すようになるかを考えたり、絶対に犯罪や非
行をしてはいけない雰囲気づくりをしてほし
い。大人たちのその行動が、今の子ども達に
犯罪や非行を犯さない、未来の子ども達も、
犯罪や非行を犯さないような社会作りにつな
がると思う。

私たちも、社会を明るくするためにできる
環境作りはあるだろうか。きっと、それは、
「それもいいね」と相手の考えを認め、尊重
しながらも、自分の意見を信じ、他の人に流
されないことが大切だと思う。

私は、みなさんに伝えたいことがある。そ
れは、多くの人がやっていることが常に正し
いとは限らないということ。正しい時もある

がそうではない時が多いと感じる。その対策として私は、「泰然自若」の精神を常に持つことが大切だと思う。それは、流行に流されず芯を強く持ち、おだやかにいることだ。

「〇〇くんがやっっているから」

この「やっっているから」が決して悪い行いではなく、人を幸せにする行いになりますように。きっとこのようなことを言う子ども達が多い社会には、明るい社会が待っているはずだ。私は、そう信じている。